

道徳

教えて！加藤先生

教えて！土田先生



千葉大学教育学部教授

土田 雄一

「小学道徳 ゆたかな心」(光文書院)監修



筑波大学附属小学校教諭

加藤 宣行

「小学道徳 ゆたかな心」(光文書院)監修

オンライン授業を 新たなツールに

「コロナ禍」により、2020年度は「メディア授業」を余儀なくされました。私の大学でも「オンデマンド型」(一方方向型)の授業から始まり、現在は「対面」「オンライン型」(双方向型)の授業もしています。教師には抵抗感があっても、オンラインゲームやSNSに親しんでいる子どもたちにとっては抵抗感が少ないかもしれません。今後、「GIGAスクール構想」でパソコンがより身近になるでしょう。はじめは大嫌いだった「メディア授業」でしたが、それぞれ「よさ」があることがわかりました。「オンデマンド型」では、視聴者は自分のペースで学ぶことができます。授業者は視聴者がちゃんと理解し、深く考えることができるように準備しなければなりません。対面でのやりとりでごまかしていた自分の授業の課題に気づかされました。「オンライン型」では、共有画面に教材を提示し、受講者の反応を確かめながら進めることができます。だけでなく、「グループ活動」をすることもできます。「オンライン授業」をツールとして捉えると授業に幅がでます。「新たな道徳授業づくり」につながります。

オンライン環境の充実 その可能性と課題

令和2年度もあとわずかとなりました。今年度は、世界を挙げての難局に対応・対抗することに、全精力を傾けざるを得ませんでした。今後も予断を許さない状況が続くことも視野に入れながら、「何ができるか」を考えていく必要があるでしょう。

そのような中、オンライン環境が急速に整い、ネット会議システムも様々な活用が工夫され始めて、私もその可能性を改めて感じているところです。

例えば、「〇〇について考えてみよう」という問題提起をオンライン上で行うとします。すると、子どもたちは各家庭で、自分のペースで取り組むことができます。家庭で話題にすることもできたでしょう。実際、後で提出されたノートを見ると、質も量もこれまで以上に充実しているものがたくさんありました。

一方で感じたのは、「二極化」です。やる気のある子たちはどんどん進んでいく中で、それについていけない子たちも出てくるということ。これはやる気だけの問題ではなく、環境格差のような問題もあると思います。コロナが収束した後でも、オンラインを活用した教育は今後も継続・発展していくことでしょう。これを機に、「何をすべきか」を一人ひとりがしっかり考え、実践していく必要があるでしょう。